大阪府保育士会だより

ほほえみ

平成16年12月1日
第68号
大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会
大阪市中央区中寺1-1-54
TEL 06-6762-9001

生涯現役モットーに「まだまだ頑張りますョ」

武内会長に　瑞宝単光章

秋の叙勲で、全国保育士会会長の武内茂子先生が、瑞宝単光章を受章されました。

昭和29年に保母（現保育士）になり、平成13年から全国保育士会の会長に就任。「倫理綱領」を策定するとともに、保育士を国家資格にすることにも貢献されました。

50年間で送り出した園児は5千人を超え、今も旭ヶ丘学園主任保育士であり、自ら子どもの中に入って実践し、子どもと触れ合う時間を特に大切にされている姿勢は、保育士の鏡といえるのではないでしょうか。

先生自身、生涯現役を誓われ、多難な保育の未来に向けて、現場を代表するリーダー・道しるべとして、今後も私たち保育士を導いていただきたいものです。

「保育士は子育ての専門家。親や地域社会の期待にこたえられるように努力しなければ。これからが正念場。まだまだ頑張ります」という力強いお言葉に、私たちも気を引き締めて、武内先生を手本に保育にあたりたいものです。

12月に祝賀会を予定しています。受章をお祝いするとともに、先生からパワーをいただき、保育士の社会的認知に向けて努力していくことを誓いましょう。

おめでとうございます

地域とともにふれあい大切に

北大阪・南大阪ブロック

おモチつきだよ全員集合!!

=同窓会にもなってるよ=

毎年、恒例のモチつき大会は、園児だけでなく、地域の子どもたちと保護者の方々、冬休みに入った卒園児たちも加わって、賑やかに行われます。高校生以上になった卒園児は、おモチつきのつき手としても一人前に活躍してくれます。モチつき大会がちょっとした同窓会にもなっているようです。

つきたてのおモチは、きな粉をまぶしたり、あんこモチにして何回もおかわりをして食べています。

石臼とキネでつく伝統的なおモチつきを、これからも大切に子どもたちに伝えていきたいと思っています。

寝屋川市　石津保育園

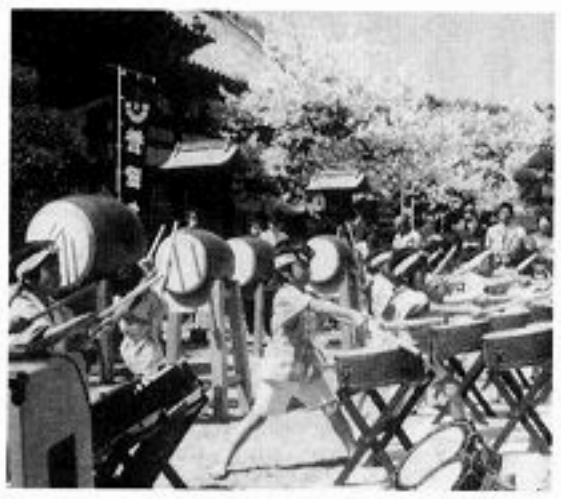
和太鼓で世代の輪

=花見の宴　賑やかに=

昭和52年に地域の方々の声を集めて設立された園で、特に、和太鼓には力を入れて取り組んでいます。

そのひとつとして、毎年4月初め、桜の花が満開の時に、誉田八幡宮で地域の老人の方々の「花見の会」に和太鼓を演奏し、子どもたちが、老人の方に「いつまでも、お元気で」と声を掛け、世代間の交流をはかって喜んでいただいています。

羽曳野市　誉田保育園



専門性　裏づける力を

～3日間　主任保育士研修会で習う～

主任保育士研修会を、7月6日、7月27日、8月9日の3日間、大阪社会福祉指導センターで開きました。

◆第一日目

講義①「これからの保育所に求められるもの」

講師：大阪府健康福祉部児童家庭室・藤田哲士室長

始めに、保育士国家資格化の背景には社会的な重要性があると話されました。

昔は、家族や地域ぐるみで子育てをしていたが、今では父母二人で、不安材料をたくさん抱えての子育てをしなければならない。これを社会的な問題としてとらえるには、この中核を担う保育士が登録を受け、専門的な知識及び技術を持って、児童の保育・その保護者に対して保育に関する指導を行う事を業とする専門職として保育士の名称を用い、それ以外の無資格者を排除する「名称独占」の必要性が不可欠であるということです。

このほか、新しい保育士制度に対する現場の意識や整備方針の問題点、入所児童枠の拡大や多機能化するニーズに迅速かつ柔軟に対応しつつある民間の活力、保育所と幼稚園をめぐる規制緩和や第三の施設、在宅育児のリスク、児童虐待防止対策、次世代育成支援対策推進法の概要など、内容の濃い講義をしてくださいました。

講義②「これからの主任保育士としての専門性と保育士の倫理」

講師：全国保育士会　武内茂子会長

現代の親に対応していくためには、教育と養護の両面から、今預っている園児を大切にしながら、情報発信の役割を果たすという事や日々研鑽・鍛練している専門性を持った保育士が、人間性豊かに、言葉巧みに相手の気持ちに添いながら「保育のコーディネーター」としての役割を、倫理綱領を基に実践していく必要があるという事を話され、最後に、専門職としての自覚を持ち、目標と理論が一体化された保育を行い、主任保育士として保育全体のアンサンブルを美しく奏でる役目をしてくださいと講義されました。

◆第二日目

「現代の家庭をとりまく状況、その支援について～家族援助論～」

講師：神戸親和女子大学・寺見陽子教授

午前中の講義では、現代の社会の子ども、家族から始まり、子育て支援、家族援助の意義、必要性、そして家族のかかえるニーズと援助の視点を学び、保育園における子育て支援、家族援助がどこまでできるのか、どこまで必要なのか、その役割と課題を学びました。

家族援助として、実際行われた実例も話され、一般的には考えられない、「えっ、そこまでしなければ」と驚きでいっぱいになりました。そして対人援助技術と家族ソーシャルワークの重要性ということで午後から演習へと移りました。

社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）とカウンセリング、基本的態度である傾聴、受容、共感、そしてかかわりの技術10項目（促し、くり返し、要約など）理解における5つの態度（解釈的態度・支援的態度・探求的態度など）かかわりの視点などを念頭に、実際に2人が組を作り10分間の時間内カウンセリングを行いました。相談者の方は前もって自分の言いたい事を書いておきます。10分経つと役を交替し、再び行い、その後お互いを評価し合いました。

初めて会う方との演習で最初、場内は戸惑いをみせていましたが、徐々に会話する声が大きくなり、皆さん熱心に活発に話が進んでいるようでした。そして最後に自分自身を知るということで、エゴグラム自己診断テストを行い採点し、大きくうなずいている方が多かったように感じられました。

9時15分から17時まで、長時間の研修でしたが、あっという間に過ぎ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

◆第三日目

「保育所における社会福祉援助技術について〈相談・援助・支援〉」

講師：大阪市立大学・山懸文治教授

社会福祉とは、①社会福祉が対象とする問題②問題に対する資源制度③問題と資源をつなぐ、そのつなぐが援助技術です。援助技術とは、①問題に気がついていない人に気づかせる②気がついても我慢している人③開き直っている人たちへの援助です。そのために、しっかり聞く耳を持つことと、何のために援助するのか、援助観、人間観が必要とされます。柔軟性をもって常に相手に合った見方をしていかなければなりません。問題によっては、時間が必要であり、決断力や直感が大切です。また、実践の積み重ねが大変重要です。

昔は、大家族で子育ても助け合っていましたが、現代では、核家族で、一日中母と子だけの生活も少なくありません。保育園に通っているお母さんだけでなく、在宅のお母さんをどう援助したらよいかを日々、考えさせられます。まとめとして、色々なネットワークをもち、お互いの力を合わせて頑張り、複数のサービスを提供することが必要ですと結ばれました。

午後からは、演習でグループ討議を中心に「保育所における社会福祉援助技術の実際について」グループで話し合い、配布された資料に記入しました。

各保育園の子育て支援に関しての活動を知り、これからは自分の保育園だけでなく、地域の子育て支援に関しての活動を重要視していかなければいけないことを、今回の研修で再確認できました。

“新しい力”をつけよう

下関で 全国保育士研究大会 10/20-22

平家おどり保存会の皆さんによるオープニングで幕を開けた第38回全国保育士会研究大会。台風23号が北上中の下関市で、参加者1500人という熱気あふれる大会となりました。

1日目は、開会式での倫理綱領の朗読、永年勤続者の表彰などに続き、次世代育成支援対策の推進、総合施設とは何か、運営費の一般財源化問題などの行政説明が行われました。

武内茂子全国保育士会会長は基調報告の中で

- 専門職としての自立、一人一人がパワーアップ、スキルアップに努める
- 地域の中で連携し、協働していく
- 組織を意識し、その中で研修し力をつけていく
- 社会の中で、保育士のやさしさ、強さをアピールする

ことが大切と話されました。

2日目、第2分科会―遊びを通して総合的に行う保育―に、堺ブロックからみどり幼児園の小林由実さんが発表されました。

子どもが主体的に集中できる保育をめざして―身近な素材に関わって遊ぶことにより―をテーマに、ペットボトルや空容器で自由に遊ぶ子どもたちの姿を丁寧に観察、記録し、3歳未満児に適した素材とは何か、素材の提供の仕方や保育士の関わり方によって、子どもはどのように育っていくのかを考察。

発表者の小林由実さん

日常生活で使う素材は子どもの興味を引き、一人一人が自分に合った関わり方ができる、その結果、長い時間集中して遊べる。

遊びの中で見られた行為は、各年齢の子どもたちの生活の中での「育ちの行為」と一致する遊びで、それを真摯に見ることは保育士としての学びの場となると締めくくられました。

今井和子東京成徳大学教授からは「研究の視点、方法、展開が具体的で明確。今後は保育士の役割に関する実践研究を」との助言をいただきました。

助言者の今井和子先生

特別分科会では北大阪ブロック常称寺保育園が「一時保育から見える子育て支援」を発表されました。

3日目は、「今こそ考える『保育士の専門性』と題したシンポジウムがありました。子どもの〝全体性〟の把握と発達支援の大切さ、親や地域と関わる力を身につけること、要保護児童への予防的視点を持つことなど、討議が行われました。

遊びは生活 3つの〝やすく〟

保育士研修会

保育士研修会が、9月8日（水）大阪社会福祉指導センターで行われました（参加者218人）。

はじめに、武内茂子会長から、民間保育園の一般財源化問題や総合施設についての中間報告などがあり、大きな変革期に、私たちの使命は何なのかを考え、いろいろな機能をはたす保育園づくりに意欲を見せてほしいとあいさつがありました。

研修の最初は、保育士による発表で、「遊びを通して総合的に行う保育」（3歳未満児）をテーマに、堺ブロックのみどり幼児園小林由実副主任保育士が実践研究発表をされました。（第38回全国保育士研究大会で発表されましたので関連記事を参考にして下さい）

つづいて、堺ブロックの実践研究に関わられた舟井賀世子先生（大阪信愛女学院短期大学・初等教育学科・非常勤講師）に「遊びをとおして」のテーマで講演をしていただきました。

生活＝遊び＝造形

子どもたちの遊びは生活そのものであり、その遊びが造形にくっついている。0～5歳の子どもたちが遊ぶ素材として、いろいろ利点があり魅力のある生活から出てくる廃材を使用し、探索活動（保育士は子どもたちの様子を見守っていく、その中で見えてくる子どもの行為を確認していくこと）を基本ととらえていくと、年齢における造形の発達段階が見えてくる。それを理解した上で保育士が保育することは基本中の基本であると話され、実際に先生が現場をまわられ保育をされた事例を盛り込みながら、各年齢における子どもたちの行為や色彩、絵画表現などの発達を教えていただきました。

また、保育士の配慮として、なかなか遊びを見つけられない子どものための、保障の保育（全児に同じ課題を与え行う保育）の大切さ、環境の配慮としての〝3つの「やすく」〟①とりやすく②活動しやすく③片づけやすく。保育士が場を考えることで子どもたちの活動も変わってくると話されました。

最後に、子どもたちの育ちは、保育士の配慮により考える力が育ち、その中で満足感、達成感を味わい、いろいろなことを習得していく、いろいろな廃材を使用した遊びを保育の現場でやっていただきたいとしめくくられました。

竹城台東保育園　谷口　明子

たのしい保育活動

おすもうで〝なにくそ精神〟

毎年、さわやかな5月の空のもと、こいのぼりが気持ち良さそうにたなびく園庭で、すもう大会を行います。5月のこどもの日にちなんで、子どもたちが主役でいきいきした活動を！と始めた大会も今年で25回目を迎えました。

すもうを知り興味を持つ事で、四股（しこ）のふみ方、手のつき方が上手になってきました。行司は年長児が分担し呼び出しや対戦中のかけ声、勝負の判定もします。

土俵は、つなひきの綱を利用して作ります。

各クラスで年齢に応じた対戦を楽しんだ後は、クラスの優勝者同士が対戦する横綱決定戦を行います。周囲からはすごい応援合戦でこの日一番の盛りあがりの瞬間です。

今年は年長児を押し切り、年中児が横綱になりました。かなわないと思う相手でも負けないぞという気持ちとあきらめず粘り強い忍耐力で、力量以上の結果につながることを実感した一日となりました。

子どもたちだけではなく保育士の対戦や、おすもうさんに変身した保育士との対戦など、いろいろ趣向をこらして楽しい行事になるように、子どもの目線で今、何が必要なのかを考えるようにしています。

すもうを遊びの中に取り入れることで体力の増進を図り、友達同士の広がりを深めています。

今後も日本を代表するスポーツを、21世紀を担う子どもたちに伝承していこうと思っています。

天神山保育園　三村　貞子

▲ヨイショ ヨイショ

◀ボクがんばったよ

保育あんな工夫・こんな工夫
果樹で育てる幼い五感

にこにこ笑顔で明るく元気に走り回る子どもたちです。

でも、ちょっと落ち着いた環境を整えようと、今年初め、園庭に木を植えました。植木からもらえるマイナスイオンや、ホッとできるスペースが遊ぶ子どもたちの心をやさしく包みます。

より五感を育てたく、実のなる木を選んで植えたビワ・イチジクは、その後実をつけて子どもたちの口に入っています。新しく入園してくる子どもたちは、自分で皮をむいて食べるすべがわからないようです。家庭での経験がないのでしょう。

子どもたちの育つ中で、いろいろな経験を通し〝五感〟を育てることを保育の目標に掲げています。実のなる木は、特に触覚、嗅覚、味覚を味わえるとてもよい材料です。四季を通じて、いろいろな虫たちがやってきて、どんなふうに花が咲き実をもつのかなど、たくさんの体験ができます。

今後は、木登りのできる大きな木を植える予定で、たくさんの体験ができる園庭作りを目指しています。

浦堂保育園　濱崎心子

おーい まってー。

編集後記

保育士資格が国家資格化され、はやくも1年が経過しました。保育情勢の変化にも驚かされる今日この頃です。今、保育所のなすべき仕事は何か、私たちに課せられた仕事内容の拡大化、また、重さを感じずにはいられません。この世に生を得た子どもたちすべてが平等にかつ、豊かな愛情のなかで心身ともに健やかに育てられる権利をもっています。私たちは常に子どもの最善の利益を尊重し、未来に向かって翔たける子どもたちを応援していきたいものです。今年も残すところ1か月程となりました。この一年、大変な年でしたね。台風や大地震で多くの人命を亡くし、また、傷をおわれた方、家屋を失われた方に、お悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、今後の早期の復興と、これから寒さも増しますが皆様のご健康を心から御祈り申し上げます。

―私たちにできるお手伝いがあれば考えてみましょう―